

「不思議な力」

ガンバートル・ナンディンザヤ（モンゴル）

私は子供のときから、医師になりたいと思っていました。その希望は幼稚園から高校まで、一回もかわったことはありませんでした。周りの人達から、なぜこんな難しくて、大変な職業を選んだのか、とよく質問されました。でも私は人間の健康のために働くのは素晴らしいと思いました。もちろん、大変なこともたくさんあったし、たくさん我慢もしました。大学の医学部に入ってから、勉強しなければならぬことがたくさんあって、苦しかったです。大学を卒業して、やっと医師になることができました。しかし、医学は日進月歩、私はもっともっと勉強しなければならぬと思いました。私の働いていた病院の教授が、日本の医学の技術や研究の話聞かせてくれました。モンゴルと日本の医学研究は深く結びついていて、これからのモンゴルの医学研究、医療技術の発展には欠かせない関係になっていると聞きました。それで、私は日本へ留学することに決めました。そのときは、私は日本語にも、日本文化にも全然興味がありませんでした。それに、日本にこんなにたくさん漢字があるとは知りませんでした。

日本に来て日本語の勉強を始めて、本当に困りました。なぜたくさん漢字があるの？どうしよう、と思いました。漢字がわからなかったらなにもできません。でもたくさん漢字を覚えるのに長い時間がかかります。いつになったら医学の勉強ができるのだろう、もう日本語は無理かな、やめようかな、と思ったこともありました。でも、私はやめませんでした。もちろん目的があったからですが、それだけではなく、日本語に不思議な力があったからです。

数年前に、心臓移植手術を受けた患者が心臓とともにその心臓提供者の好みや癖も受けついでことについて書かれた本を読んだことがあります。日本語もこの心臓移植と同じかもしれません。私はモンゴルにいたころ、白いご飯があまり好きではなかったのですが、日本語を勉強しているうちに、大好きになりました。モンゴルでは、お辞儀をする習慣がありませんが、今、私は無意識にすみませんと言いながらお辞儀をしています。日本に来たばかりのころ、学校に1分でも遅れると、遅刻ですよ、ときびしく言われました。1分ぐらい大丈夫じゃないんですか、と心の中で思いましたが、今は違います。時間を守ることは大切です。

時間が過ぎて私は変わってきました。何か不思議な力がだんだん私を日本語の勉強にひきつけていったのです。だから私は時間がかかっても、漢字がたくさんあっても、日本語の勉強をやめないのです。ではこの不思議な力とはなんなのでしょう。それはわかりません。

もし何かに取り組んでいる場合も、難しいけれど、あきらめないで頑張ったら、不思議な力が見えてきます。途中であきらめたら不思議な力が見えないです。ですから、すぐやめてしまいます。不思議な力が見えるまで、がんばったら、あと自然に続けられるようになります。

皆さんは、皆さんの不思議な力がみえていますか。